イベント報告

富士を仰ぐ一日

村越 真

富士山麓 12 時間ロゲイニング　2014 年 5 月 31 日 静岡県富士宮市朝霧高原

夜間行動まであるロゲイニング

ロゲイニングが多くの参加者を集めているが、自然の中で道を外れたナヴィゲーションが楽しめる本格的なロゲイニングは多くない。数少ないイベントの一つ、富士山麓ロゲイニングが、朝霧高原ロゲイニング大会会場として知られた静岡県立朝霧野外活動センターで、5 月 31 日に開催された。

２年に一回開催されるこの大会は、前回、世界遺産登録直前に開催された。世界遺産構成要素の人穴や山宮浅間神社など名前だけは知られている富士山麓の文化・自然の遺産から、知られざる富士山西麓のスポットまで楽しめるのが、このイベントの特徴だ。今回も、約 170 名 67 チームの参加者が関東から関西に至るエリアから集まり、終日、富士山の眺めを楽しんだ。

前回は７時スタート、夕方の７時に終わる設定だったが、今回は土曜日の９時にスタート、フィニッシュが 21 時だ。短いながら夜間行動もある。少しづつ本格的なロゲイニングに慣れていってもらおうというのが、主催者の目論見である。またエリアは前回の南東部に長く延びた広大なエリアから、朝霧北部に延びたコンパクトなエリアとなった。その分、作戦のウェイトも高くなる。

暗くなってからフィニッシュに向かう参加者。闇の中から LED のヘッドライトが揺れながら近づき、次第に選手達の顔が見えてくるフィニッシュシーンは、ナイトの時間があるロゲイニングならではの光景だ。

ロゲ世界選手権にむけて

今年はアメリカでロゲイニングの世界選手権が開催される。トータスの海老さん、混合の田辺洋一さんペア、岡部さんペアが出場チームとして招待された。それに加えて、地元在住のトレイルランナー相馬剛さんが今年から本格的にナヴィゲーションスポーツ（OMM：オリジナル・マウンテン・マラソン）に参戦することになり、柳下大さんとチームを組み出場。彼らがどれだけ得点を伸ばせるかが焦点の一つだ。

40 分というたっぷりした作戦タイムで、周り方を検討する相馬・柳下チーム

競技の様子

８時 20 分、簡単なブリーフィングが終わり、地図が配布される。前回より小ぶりだとは言え、1:25000 で幅 10km、長さ 18km の巨大なエリアだ。標高差 600m 以上ある天子山地の稜線もたっぷり入っている。フォト形式ではこうした場所は単調なチェックポイントになりがちなのだが、少しづつ稜線を外し、地図読みがなければアプローチにロスが生じるように設定されている。侮れない。これも、限られた運営リソースで最大限にナヴィゲーションを楽しんでもらおうという主催者の目論見である。

稜線そばにある微地形にあるポイントを目指す参加者。林の中のナヴィゲーションがあるのも、本大会の魅力の一つである。

上位チームの周り始めのルートはほぼ共通であった。少しづつポイントを取りながらまず天子山地に入り、稜線の高得点をとりながら、南部に進む。南部では狭い範囲に得点が集中しているので、そこをなめて、北部に上がっていく。その後の処理はチームによって違うが、相馬・柳下組は、そこでまさかの会場一時帰還。北上する東部のルート上に給水ポイントがないことからの決断だったという。15 分ほど充電してフレッシュな様子で再び５時間近い周回に赴いていく。

この日は奇しくも優勝者柳下大の誕生日。運営者からお祝いのお手製のケーキが贈られた。

接戦！体力？知力？

ふたを開けてみると、相馬・柳下組は 3440 点で堂々の優勝だが、２位の竹内・田中組も 3210 点と、200 点差まで迫っていた。ルートと走行距離を見ると、もっと点差がありそうだ。作戦面では竹内・田中組に軍配が上がったというべきなのだろう。

終了後は 22 時より表彰式と懇親会。いつもと違うリラックスしたムードでルート解説や参加者どうしの交流の時間を持つことができた。この日は奇しくも優勝チーム柳下さんの誕生日。主催者お手製のケーキが渡された。

また翌日は 10 時より、富士山の全てを知る火山学者小山真人氏による富士山の地形についての講演会が持たれた。前日回ったばかりの地形や歴史上のポイントの、富士山周囲の地質学上の意義を聞くことができた。

（村越 真）